

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年4月4日（金）

2 確認箇所

- (1) 2号機タービン建屋（図1）
- (2) J9タンクエリア（図1）

3 確認項目

- (1) 2号機原子炉格納容器（PCV）ガス管理設備における地絡発生への対策の実施状況
- (2) J9タンクエリアのタンク解体工事の状況

4 確認結果の概要

- (1) 2号機原子炉格納容器（PCV）ガス管理設備における地絡発生への対策の実施状況

原子炉格納容器（以下「PCV」という。）内は、窒素封入設備により窒素ガスで満たされ、さらに周囲から空気が内部に流入しないように正圧（大気圧より高い圧力）に保たれている。また、PCVガス管理設備により、放射性ダストを除去するフィルターを通して排気するとともに、PCV内部の水素濃度、放射性希ガス濃度等を常時監視している。

令和6年11月15日にタービン建屋内に設置されている2号機PCVガス管理設備モニタ系分電盤（B）において地絡警報が発生してサンプリングポンプが停止する不適合が発生しており、今回は、当該不適合への対策の実施状況について確認した。（前回確認日：令和7年3月19日）

- ・2号機PCVガス管理設備の一部（PCVガス管理設備現場制御盤、ダストモニタ、希ガス放射線モニタ及びダストモニタ吸引ポンプ等）は、塩害対策のため、塩害対策ハウス内に設置されていた。（写真1）
- ・塩害対策ハウス内には重要設備が設置されていることから、重要機器であることを示す表示や接触厳禁の表示が貼付されていた。確認した範囲では、異常な振動や異音などの異常は認められなかった。（写真2）
- ・東京電力より不適合発生の原因と対策状況について聴き取りを行った。結果は以下のとおり。

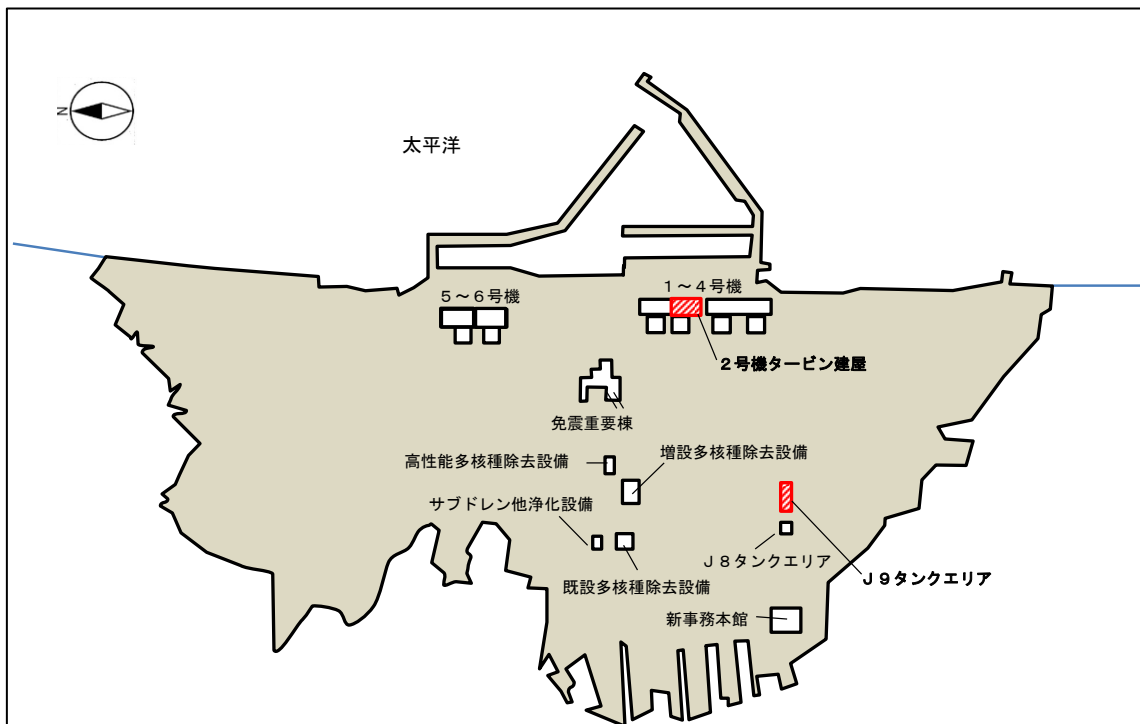
温度調整装置の点検終了後に地絡が発生したが、地絡発生箇所と当該装置の回路は交差がないことから、当該装置の点検が地絡発生の直接的な原因である可能性は低く、現在調査中である。地絡対策としてケーブルの交換を検討している。また、2号機PCVガス管理設備内には同様の温度調整装置が4台あり、地絡対策はその4台に水平展開する予定である。（写真3）

(2) J 9 タンクエリアのタンク解体工事の状況

多核種除去設備等処理水（ALPS 処理水）をタンクで貯留している J 8 及び J 9 タンクエリアは、3 号機の燃料デブリ取り出し関連施設の建設が予定されており、うち、J 9 タンクエリアではエリア内に設置された溶接型タンクの解体が令和 6 年度下期から令和 7 年度末にかけて計画されている。

本日は、令和 7 年 2 月から実施している J 9 タンクエリアのタンク解体工事の進捗状況について確認した。（前回確認：令和 7 年 3 月 31 日）

- ・現場では全 12 基中 4 期目の溶接型タンク解体が行われていた。4 基目の溶接型タンク解体は側板の一部撤去が行われ、側板の切断をするために作業員がタンク上部で作業をしていた。（写真 4）
- ・確認を行った範囲において、解体片の飛散等の異常は確認されなかった。



(図 1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1－1)
塩害対策ハウスの設置状況



(写真1－2)
希ガス放射線モニタ



(写真1－3)
ダストモニタ吸引ポンプ



(写真1－4)
水素分析計



(写真1－5)
PCVガス管理システム分電盤
(B)



(写真 2 - 1)
PCV 排気監視装置水素モニタサン
プリングラック



(写真 2 - 2)
PCV ガス管理設備現場制御盤



(写真 3)
温度調整装置



(写真 4 - 1)
J 9 タンクエリア解体現場の状況



(写真 4 - 2)
タンク側板解体作業の状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。